

## 消化器センター

### 1. スタッフ

センター長（兼）教授 竹原 徹郎  
その他、教授 1 名、医員 4 名（兼任を含む。）

### 2. 診療内容

平成 25 年 4 月より消化器センターとして、肝胆膵疾患並びに消化管疾患をはじめとした消化器系疾患を対象に、内科/外科のハイレベルの医療技術を基盤に、両科間の迅速かつ確実な連携による集学的な医療を推進している。

#### (1) 内科

##### 1) 肝胆膵疾患

肝疾患ではC型慢性肝炎やB型慢性肝炎を対象として大規模な多施設共同研究を継続しており、世界でも中心的な役割を果たしている。劇症肝炎に対しては、多診療科からなる劇症肝炎ワーキングにて治療方針を決定し、血漿交換や持続血液透析濾過法などの集中的内科治療が困難な場合は速やかに肝移植が施行可能となる体制をとっている。肝癌に対しては、早期診断や治療にも力を注ぎ、ラジオ波焼灼療法、経皮的エタノール注入療法、肝動脈化学塞栓術、分子標的治療などの集学的治療を実践し、良好な成績をあげている。

胆膵疾患では、内視鏡的逆行性膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡（EUS）、超音波内視鏡下穿刺吸引術（FNA）などにより膵癌や胆道癌の早期かつ正確な診断を行い、消化器外科、放射線科との合同カンファレンスで治療方針を決定し、化学療法や内視鏡的胆膵処置を行っている。

##### 2) 消化管疾患

食道癌・胃癌・大腸癌の診断としては、拡大内視鏡/特殊光内視鏡/超音波内視鏡などを駆使して病変の早期発見、深達度診断を行っている。治療に関しては、消化器外科とのカンファレンスにより治療方針を決定後、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、腹腔鏡手術、あるいは両者のハイブリッド治療などの低侵襲な治療を積極的に行っている。標準治療に加え、内視鏡治療、化学療法、放射線化学療法、免疫療法などの臨床試験をはじめとした新規治療にも積極的に取り組んでいる。

一方、近年急増している炎症性腸疾患に対しては、小腸内視鏡やカプセル内視鏡などにより診断あるいは病変把握を行い、免疫抑制剤、生物学的製剤、血球成分除去療法などによる治療を行っている。

#### (2) 外科

内科との合同カンファレンスにおいて手術適応と判断した患者に対して手術を中心とした治療を行っているが、特に負担の少ない内視鏡下手術（胸腔鏡下

手術、腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術）に取り組んでいる。進行癌に対しては化学療法、化学放射線療法、治療などを用いた集学的治療を導入し、治療成績の向上を図るとともに、高度な技術を要する拡大手術も積極的に行っている。

移植医療に関しては現在までに脳死肝移植 31 例と生体肝移植 276 例（成人 175 例、小児 132 例）及び脳死膵移植 55 例の実績がある。

### 3. 診療体制

#### (1) 外来診察

内科は、内科東外来にて月曜日から金曜日の午前、午後 5 診察室（1 診～5 診）で専門外来を行っている。また、6 診（午前）で初診外来を行っている。

外科は、外科外来にて月曜日から金曜日の午前、午後 2 診から 15 診を使用して専門外来を行っている。

#### (2) 入院診療

##### 1) 病棟

病棟はグループⅢに属し、内科は主に東 11 階病棟を、外科は主に西 10 階と西 11 階を使用している。

##### 2) 病棟体制

内科は、病棟医長、シニアライター 5 名、ジュニアライター 10 名の体制で、研修医に対してはジュニアライターがマンツーマンで指導している。検査及び治療については、上部・下部内視鏡検査、小腸ダブルバルーン内視鏡検査、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡下穿刺吸引術（EUS-FNA）、経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）など、幅広く行っている。

外科は常勤医（科長、副科長を含む）25 名と医員 19 名で診療にあたっている。なお、腫瘍内科医が消化器外科の所属として 4 名在籍、化学療法の治療を中心に担っている。月曜日の 7 時 15 分より臨床カンファレンスと重症回診、金曜日 8 時 30 分から総回診を行っている。

### 4. 診療実績

#### (1) 内科

肝細胞癌、胃癌、大腸癌、膵癌、食道癌といった悪性疾患の症例を中心に診療している。また、ウイルス性肝炎や非アルコール性脂肪肝炎、炎症性腸疾患（クローン病・潰瘍性大腸炎）も数多く診療し、臨床研究を行っている。

##### 1) 外来診療実績

令和元年度の外来患者延べ人数は新患 953 名、再診 41,977 名、合計 42,930 名にのぼる。

##### 2) 入院診療実績

年間入院患者数は 1,304 名であった。

3) 検査・治療件数

令和元年度に施行した主な検査・治療件数を表に挙げる。

検査・治療手技	件数
腹部超音波	4,147
上部消化管内視鏡検査	4,870
下部消化管内視鏡検査(大腸)	2,256
下部消化管内視鏡検査(小腸)	127
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	288
精査内視鏡(消化管):含 EUS	381
超音波内視鏡(胆膵):EUS	301
超音波内視鏡下穿刺吸引術:FNA	137
超音波内視鏡下治療	8
カプセル内視鏡	69
肝生検(腹腔鏡下・超音波下)	128
ラジオ波焼灼療法	42
食道静脈瘤硬化療法、静脈瘤結紮術	30
アルゴンプラズマ焼灼療法	3
内視鏡的粘膜下層剥離術:ESD(食道)	60
内視鏡的粘膜下層剥離術:ESD(胃)	106
内視鏡的粘膜下層剥離術:ESD(下部消化管)	69
内視鏡的粘膜切除術:EMR(上部消化管)	16
内視鏡的粘膜切除術:EMR(下部消化管)	203
内視鏡的胃瘻造設術	74

(2) 外科

消化器悪性腫瘍に対する手術を中心とした集学的治療、炎症性腸疾患や機能的疾患に対する手術治療、先進医療及び移植医療を行っている。

1) 外来診療実績

令和元年度の主要疾患外来患者延べ人数は新患 911 名、再来 21,532 名、合計 22,443 名にのぼる。

2) 入院診療実績

令和元年度の年間入院患者数は 1,632 名であった。

3) 検査・治療件数

外来内視鏡検査は 1,269 件であった。外来での化学療法患者数は延べ 2,585 件であった。総手術件数は 872 例であった。主なものを表に挙げる。

疾患(主なもの)	手術件数
食道癌	115
胃癌	116
結腸癌	107
直腸癌	100
肝細胞癌	49
肝内胆管癌	6
転移性肝癌	26
胆道癌	22
膵癌	36
食道機能性疾患	6
炎症性腸疾患	68
GIST	23
減量手術	5
生体肝移植	2
脳死肝移植	4
膵(腎)移植	7
ロボット手術(食道、胃、直腸)	102

(3) 新規治療

肝疾患領域では C 型慢性肝疾患に対する新規経口抗ウイルス剤に関する大規模な多施設共同研究が進行中である。また、癌領域では、消化管癌に対する内視鏡治療の適応拡大を目指した臨床試験や、進行膵癌の 2 次治療に関する臨床試験を進めている。さらに、炎症性腸疾患においても新規分子標的治療などの臨床試験を行っている。

手術においては、ロボット手術が平成 30 年 4 月より食道癌、胃癌、直腸癌に対して保険適用となり、大幅に症例数を増やしている。化学療法、免疫療法などを中心とした治療や、手術・術前術後の集学的治療に関する臨床試験を多数行っている。

5. その他

(1) 内科

日本消化器病学会認定施設

指導医 11 名、専門医 51 名

日本消化器内視鏡学会認定施設

指導医 7 名、専門医 35 名

日本肝臓学会認定施設

指導医 10 名、専門医 25 名

日本内科学会認定施設

指導医 14 名、専門医 17 名、認定医 59 名

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

指導医 1 名、がん薬物療法専門医 2 名

(2) 外科

日本外科学会認定施設

指導医 14 名、専門医 62 名

日本消化器外科学会認定施設

指導医 20 名、専門医 38 名

日本食道学会認定施設

食道外科専門医 5 名

日本大腸肛門病学会認定施設

指導医 3 名、専門医 7 名

日本肝胆膵外科学会認定修練施設(A)

高度技能指導医 2 名、高度技能専門医 6 名

日本胆道学会認定施設

指導医 4 名

日本膵臓学会認定施設

指導医 5 名

日本移植学会

移植認定医 8 名

日本内視鏡外科学会

技術認定医 16 名

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

がん薬物療法専門医 3 名、指導医 2 名